

「えご」と「温水」とアユ漁

四万十川下流で長年落ちアユ漁に関わってきた方にお話を伺っていると、必ずといってよいほど「えご」と「温水」という2つの言葉を耳にします。この「えご」とはワンド*のことで、そこには「温水」（伏流水：冬温かく、夏冷たい）が湧き出していて、産卵期のアユがたくさん集まる場所になってい

るようです。昔は落ちアユの好漁場となる「えご」の占有権をめぐる、「温水組合」なる組織も存在していたのだとか！ 当時は越年アユも多く、漁期も年をまたいで長かったそうです。最近では「温水」の湧く場所が減り、越年アユもあまり見かけなくなりましたが、シーズンには「えご」に集まる落ちアユを目にすることができます。ここは産卵に体力を使ったアユにとって、とても居心地のよい場所なのかもしれませんね。「えご」を残し、「温水」が湧く環境を保全することは、四万十川の再生につながると思います。

（宿毛市 東健作特派員）

*「ワンド」とは、川の本川とつながっている入り江状の場所で、水がよどんでおり、流れがある本川に比べて魚や昆虫などの生き物が多く生息しているといわれています。



「えご」に集まる落ちアユ



落ちアユ漁解禁日の小畠(こばたけ)の瀬 (平成20年12月1日)



小畠のえご(ワンド)

「四万十かいどう」佐田沈下橋 ライトアップイベントに参加しました



ライトアップされた佐田沈下橋



堤防の法面などもライトアップされました



ろうそくの準備は一つひとつ手作業で行いました

美しい風景を並び、地域コミュニティの再生を目指す目的で国土交通省が進めている日本風景街道「四万十かいどう」のイベントとして、8月22日夜、佐田沈下橋周辺が約3,000本のろうそくでライトアップされました。

平成18年から開催され、4回目となる今回は、がん患者支援イベント「リレー・フォー・ライフ in 高知2009」と連携し、約1,000本のろうそくは、がん患者やその家族、支援者らが思いを綴った紙袋の中に収められて点灯されました。訪れた人々は、ろうそくの柔らかな光に包まれた幻想的な橋の風景を楽しんだり、路傍にしゃがみ込んで一つひとつのメッセージに目を向けていました。

イベントの準備は中村商工会議所や地元住民などのボランティアで行われました。私も参加しましたが、闇の中に浮かび上がった「光の橋」を見ていると、何ともいえない感慨が！ やっぱイベントは準備から関わると、ひと味もふた味も違いますね。

（四万十市 沖上茂人特派員）

四万十川

Shimanto River Album

アルバム

あの日、あの時、残したい四万十の風景

「パノラマ列車」

四万十川に架かるこの鉄橋には電柱が無い！
だから、眺望には自信がある！
イベントの時だけでなく、
毎日が「パノラマ列車」というわけだ。
これ、車内放送で自慢しても
いいんじゃないでしょうか(^^)



土佐くろしお鉄道四万十川橋梁を渡る
普通列車の車窓より
四万十市 四万十太郎さん撮影

皆さんがお持ちの四万十川の自然や流域での出来事を
写した写真を、このコーナーで紹介してみませんか？
※写真送付先：事務局（担当：田村）

四万十川自然再生協議会 通信

8号

発行日●平成21年12月7日
発行●四万十川自然再生協議会（略称：再生協）
四万十川自然再生協議会ホームページ
<http://shimanto-saisei.com/>

マイヅルテンナンショウの真っ赤な果実を観察、 保護育成の草刈りも！

第27回 四万十川自然観察会

10月24日、マイヅルテンナンショウの会と合同で、四万十市入田地区の河川敷に生育するマイヅルテンナンショウ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）の果実（結実株）の観察と、保護育成のための草刈りを行いました。

マイヅルテンナンショウは秋から冬はほとんどが地下で成長し、地上部は枯れていて、ごくわずかな個体のみが果実をつけます。参加者は普段なかなか見ることのできない果実をじっくりと観察し、写真に収めていました。観察を終えると、自生地と移植実験地で一斉に草刈り開始。カマや草刈機を手にも、人の背丈ほどに伸びた草を一生懸命刈りました。1時間半ほどで河川敷は見違えるほどにすっきりとし、地表部にも光が届くようになりました。

この日は、入田地区の生育地が8月に「高知県希少野生動物保護条例」で初の保護区に指定されたことを示す看板の除幕披露も行われました。マイヅルテンナンショウの会の澤良木庄一会長（再生協副会長）は、「看板も立ち、『四万十特産のマイヅルテンナンショウ』として、さらに知名度も上がることでしょう。生育地は河川区間でもあるので、地域防災・治水という面も考えながら保護育成に取り組んでいきたいです」と話し、今後の活動への協力を呼びかけました。



約50名が汗を流しました



看板は高知県が設置。幅1m75cm×高さ2mと大きく、四万十川を訪れる人々へのPRにもなりそうです



珍しい果実（結実株）をぜひともカメラに！



マイヅルテンナンショウは
果実も不思議な形です

マイヅル生育地 劇的ビフォーアフター



セイタカアワダチソウなど草だらけだった空間がこんなにすっきり！